

## 平成 29 年度瑞浪市地域総合支援協議会(全体会) 会議要旨

■開催日時: 平成 30 年 3 月 20 日(火) 13 時 30 分から 15 時 30 分まで

■開催場所: 瑞浪市保健センター 3 階 大会議室

■出席者: 小栗美智子、近藤ハル、安藤士郎、木村彰男、木村泰宏、高橋良明、青山泰博、田口信也、加藤健史、川本ゆかり、志水利保、柴田さだ子、近藤久美子、加藤扶美代、長島政彦、小鞠清子、原憲作(敬称略)

■事務局: 民生部長 宮本朗光、民生部次長兼社会福祉課長 南波昇、

社会福祉課課長補佐兼障がい福祉係長 山路雅子、社会福祉課障がい福祉係主事 長谷川幸

■議事要旨(各議事についての意見交換)

(1)本協議会の経緯と今後の進め方(全体会・専門部会)について

・専門部会を継続して行い、顔の見える関係を作っていきたい。全体会は、専門部会の内容を客観的に見て考えていく会議。協議会を通して地域福祉を活性化していきたい。

(2)東濃圏域における基幹相談支援センター設置・地域生活支援拠点整備にかかる動向について

・東濃各市では十分な施設はないが、東濃圏域では様々な施設があり多くの機能が含まれるため、協力して行っていくとよい。

・親亡き後のサポートや体験利用等、様々な事業所を活用し、面的な整備をしていく。

・成人の相談支援事業所は瑞浪市にない。瑞浪市独自で相談支援事業所を作る予定はないか。

⇒(事務局)今のところはない。今後は、基幹相談支援センターの設置で東濃圏域の窓口の一本化を行う。東濃圏域での相談支援体制の確立を目指す。

(3)第4次瑞浪市障害者計画・第5期瑞浪市障害福祉計画・第1期瑞浪市障害児福祉計画について

・事業を行うことで計画実行を応援できればと思っている。

・放課後等デイサービスの利用を希望し、サービス等利用計画の作成を依頼する方が増えている。利用児童は、これから大人になり、障がい者のサービスを利用していこうと感じている。障がい児と障がい者は別の支援という認識があったが、継続した支援の必要性を感じている。

・重度心身障がい児・医療ケア児への学校との支援体制はどのようか。

⇒(事務局)今後、学校教育課と連携し、一緒に支援体制を検討していく。

(4)平成30年度の専門部会および協議テーマについて(瑞浪市の支援体制における重点課題の設定)

・会議が形骸化しないよう、モデル的に1~2つの部会を実施し、実効性のある会を開いていきたい。

・市独自の障がい者雇用の支援制度はあるか。⇒(事務局)ない。

・東濃圏域で様々な会議の場があり、いろいろな会議に重複して出席している事業所は多い。検討する場が重複するのではないか。

・重複はあるかもしれないが、主旨が違ってくるので行う必要があると思う。

・課題が生じるのは、就労してから。生活面等も関係してくる。各専門の事業所から困難事例について意見を求める機会があるのなら参加したい。

・地域の特性や、実際に暮らしている人がどう思っているかを検討していけるといい。

・企業体験する場を増やしたいと思っているので、企業との話し合いの場があるとありがたい。

・協議会はこれまで3回くらい始まると聞いていたが、なかなか機能しなかった。全体として機能することが大事だと思う。特に専門部会が機能する事が大事だと思う。協力していきたい。

・就労の定着が大事だと思う。本人が不安や心配を発信できないことも多いので、周りが感じ取ってフォローしていくことが大切だと感じる。就職をすることも大事だが、継続していく支援を行うことも大事。各機関

が協力して、障がい者が就労を継続していくことが、障がい者の社会参加の大きな要素となっていく。

- 実習が就労につながることもあるので、就労の部会で関係者が集まって情報交換を行うことが必要。就労関係の話は、障がい児サービスの関係者などは直接関係ないかもしれないが、将来に向けての情報収集の場として活用していただきたい。
- 支援機関同士が、情報共有できる、顔の見える関係を構築していくことが必要。
- トータルでの相談、寄り添いが難しいと感じる。差別になってはいけない。特定の思いではなくフラットな気落ちで関わることが必要だと感じる。
- 部会ごとの目的を達せられるよう話し合えるのも大事だが、生活にはいろいろな場面があるので、様々な面でサポートし、困難に直面している障がい者の生きる意欲に繋げていきたい。
- どの機関に繋いだらいいのかということが難しい。本人の充実した日常のため、「ふつうの人」としてどうやってかかわっていくかが重要だと思う。
- 障がい者も一人一人考え方が違う。心のバリアフリーをどう進めるかを考える場が必要だと思う。
- 自分の団体がどう地域とつながっていくか考えていきたい。
- 困難事例についての対応に苦慮している。みんなで話しあって行く場ができるといい。
- 地域社会が個々の生活を支えている。障がいを負った方、難病の方等、告知された時の不安に対応するサービスがない。各自が不安を乗り越え障がい受容ができて、手帳やサービスの申請となる。不安に対応する部分が必要では。
- 介護者のレスパイト先がない。特に障がい児が利用できる場がない。
- 医療的ケア児者への対応が必要と感じる。特に学校の理解や対応の必要性を感じる。医療が重きを置かれる方については課題が多い。
- 精神疾患を持つ方の支援への課題を感じる。特に、親が亡くなり、キーパーソンがきょうだいへと世代交代していく時に、福祉に関するわかりやすい説明が必要であると感じる。
- 現在、施設環境が整っているのかというと難しい現状だと思う。現場サイドから課題を上げる必要がある。サービスの充実、特に医療的ケアの必要な重度心身障がい児へのサービス充実が必要だと感じる。
- 現状では、24時間体制で医療的ケアができない施設が多いため、日中の支援のみの提供になってしまう。24時間ケアが必要という声が大きく、課題であると感じる。
- 相模原の事件から、防犯対策についての調査が県からあった。施設に防犯機器の設置をしたが、本来は地域に開かれた施設が望ましい形であることを思うと、機器設置はそれに逆行していると感じている。
- 福祉避難所についての具体的な方策がまだであり、課題であると感じている。
- 緊急時の対応、例えば短期入所の利用について等、事業所同士で協力していければと思う。
- 児童の短期入所がないが、必要性は高いと感じる。看護師の人員配置の難しさ(人材不足)が課題である。
- 部会ごとの専門性を高めることも大切だが、総合的に考える場も大切。
- 制度を知らない利用者へしわ寄せとなる。事業所同士で情報共有していきたい。
- 市内の相談支援事業所の不足を感じる。
- 障がい児の親が相談する先が不明確であると感じる。専門病院の予約がなかなか取れない状況も課題。親も子も支援できる場所が必要。
- 児童は成長していくため、障がい児のサービスは教育の意味合いが多いと感じる。保健センター、学校、園等関係機関とのつながりが大事だと思う。
- 家族支援の重要性を感じる。家族ごとフォローできるよう部会で取り上げるべきでは。